

(仮称) 篠路駅周辺地区まちづくり計画 第 5 回検討委員会 議事要旨

【日時】 令和5年1月18日(水) 19:00~20:30

【場所】 篠路コミュニティセンターホール

【出席者】

検討委員会委員(全9名)

所属/役名等	氏名(敬称略)
篠路地区街づくり促進委員会/会長	井形 信広(欠席)
札幌駅前通まちづくり株式会社/ 統括マネージャー	内川 亜紀
北海道大学大学院工学研究院/教授	小澤 丈夫
北門信用金庫/篠路支店長	熊谷 和宏
株式会社アークス/ ゼネラルマネージャー代理	佐藤 直樹(欠席)
篠路茨戸連合町内会/会長	進藤 幸司
北星学園大学 経済学部/教授	鈴木 克典
北海道旅客鉄道株式会社/ 総合企画本部 地域計画部 主幹	野澤 憲士
JAさっぽろ/篠路支店統括支店長	渡邊 直樹

※五十音順

オブザーバー

所属/役名等	氏名
北区市民部 篠路出張所/篠路出張所長	上口 敦史

事務局

所属/役名等	氏名
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/事業推進課長	小仲 秀知
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/計画調整担当係長	吉原 康次
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/計画係	平 将太
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/計画係	金野 隼也

**【議事・進行】**

1 はじめに

- 開会（挨拶、事務連絡）

2 議事（資料1）

- まちづくり計画について
  - まちづくり計画（案）の確認
  - パブリックコメント実施結果のご報告
- 地域主体のまちづくり活動について
  - シノロリビング vol.2 のご報告
  - SHINORO open!meeting について（別紙1）
- 今後のまちづくりの展開について（資料1）

3 まとめ・閉会

## 【議事要旨】

### 1 はじめに

#### ○ 開会（挨拶、事務連絡）

（事務局）

- ・前回の検討委員会（令和4年6月）以降、札幌市の関係部局等々で調整を行い、「まちづくり計画（案）」を作成した。令和4年10月には、地域協議会にお示しし、その後11月中頃から1ヶ月間かけ、市民の方々等に広くご意見を募集するパブリックコメントを実施した。
- ・本委員会及びパブリックコメントでの意見を踏まえた修正を行い、今年度内に最終的な計画の策定を目指している。
- ・本日の会議は、パブリックコメントで市民の皆様から頂いたご意見、それに対する札幌市の考え方のご報告、シノロリビング（社会実験）、SHINORO open! meeting で頂いたご意見をご紹介した上で、皆様の忌憚ないご意見をいただきたい。

### 2 議事

#### ○ まちづくり計画について

##### ➤ まちづくり計画（案）の確認

（事務局）

- ・資料1「篠路駅周辺地区まちづくり計画（案） 概要版」を用いて説明を行う。まちづくり計画（案）は、パブリックコメント実施の際に公表している11月時点の資料である。

##### 【資料1の4ページの説明】

- ・策定の過程について、図に示すとおり、令和2年度より地域協議会及び検討委員会を立ち上げ、まちづくり計画の策定に向けた議論を進めてきた。今回、最後の検討委員会として、まちづくり計画案、パブリックコメント実施結果及び地域主体のまちづくり活動についてのご意見を頂戴したいと考えている。
- ・まちづくり計画（案）の確認について、令和4年6月28日に開催した検討委員会の「まちづくり計画（案） 概要版（A3）」の資料を基に概要版冊子として再構成している。また、本書についても、データ更新、わかりやすい表現等の修正を行っているが、まちづくり計画の骨となる部分に変更していない。

##### 【資料1の6ページの説明】

- ・令和3年度の篠路小学校3年生が制作した「私たちが住みたい篠路のまち」を題材とした絵をベースにした表紙案である。背景は篠路の藍染をイメージした藍色となっており、皆様の手にとって貰いやすいようなデザインとなっている。なお、本書と概要版の違いが分かるよう2種類の表紙としている。

【概要版の説明】

- ・まちづくり計画は、「1. 計画策定の背景」、「2. まちづくりの現状」、「3. まちづくり基本方針」、「4. 実現に向けた展開」の構成である。

【概要版の1～2ページの説明】

- ・「1. 計画策定の背景」について、計画策定の背景及び位置付け、まちづくり重点エリアとして駅前エリア・東エリアの設定に関する事項、本計画の検討過程・検討体制、計画期間について記載している。

【概要版の3～4ページの説明】

- ・「2. まちづくりの現状」について、まちづくりの現状とこれらを踏まえたまちづくりに必要な視点を整理している。

【概要版の5ページの説明】

- ・「3. まちづくり基本方針」について、「誰もが暮らしやすく笑顔あふれるまち」を基本理念とし、これを踏まえた目指すまちの将来像と6つの視点を示している。

【概要版の6～8ページの説明】

- ・基本理念、目指すまちの将来像と6つの視点を踏まえ、「(1) エリア全体」「(2) 駅前エリア」「(3) 東エリア」「(4) 地域主体のまちづくり活動」の目指す方向性を整理している。

【概要版の9ページの説明】

- ・「4. 実現に向けた展開」について、土地利用実現に向けた展開として、「(1) 駅前街区」「(2) 市有地 A・B・C」それぞれの特性に応じ中心となる機能等を記載している。

【概要版の10ページの説明】

- ・段階的な整備として、社会基盤整備の状況や各土地の現況等を踏まえて段階的に整備、地域主体のまちづくり活動の醸成を進め、エリア、周辺への効果の波及を目指すこと、そして下段には、地域住民、事業者、行政による協働のまちづくりの考え方を示している。

【概要版の11～12ページの説明】

- ・土地利用方針図として、前ページまでに述べた考え方を踏襲する形で、各エリアの方向性や駅前街区・市有地 A・B・C の利活用の考え方を記載している。

【概要版の13ページの説明】

- ・コラムとしてこれまで2回開催した、シノロリビング（社会実験）について記載している。

➤ パブリックコメント実施のご報告

(事務局)

【資料1の8ページの説明】

- ・パブリックコメントとは、計画案への意見等を広く募集し、寄せられた意見等を考慮して計画を策定するとともに、それに対する市の考え方を公表する

手続きである。令和4年11月15日～12月14日までの期間、パブリックコメントを実施した。

【資料1の9ページの説明】

- ・意見提出者数は11名で、主に北区にお住いの方からご意見を頂いている。また、意見件数は90件だった。

【資料1の10ページ（概要版1ページ）の説明】

- ・「1. 計画策定の背景」について、「1-1 背景と目的」の1行目「地域交流拠点の用語説明と、指定した経緯を記載すべき」とのご意見を頂いた。これに対する札幌市の考えとして、地域交流拠点は、平成25年策定の「札幌市まちづくり戦略ビジョン」で定めている。また補足として、用語の定義はまちづくり計画の本書4～5ページに記載している。

【資料1の11ページ（本書8ページ）の説明】

- ・「1-3 まちづくり重点エリア」について、「2行目後半の公共交通（バス）の記載につきまして、縦軸か横軸か不明である」とのご意見を頂いた。ご意見のとおり表現が分かりにくいため、表現を修正する。

【資料1の12ページ（概要版3～4ページ）の説明】

- ・「2. まちづくりの現状」の篠路駅周辺地区の現況整理について、②と③に記載の人口減少・少子高齢化に関するご意見である。「篠路地区は市内でも比較的地価が安く子育て世代から高齢者には魅力的な転入要素と捉えられる」とのご意見に対して、「2-2 まちづくりに必要な視点」に「視点①：若い世代、高齢者が住み続けたくなるまちづくり」に考え方を記載している。今後も続く人口減少・高齢化を見据え、子育て世代の継続的な流入に繋がる篠路の魅力の維持向上と、若い世代が住み続けたくなる仕掛け、高齢者にとって住みやすいまちづくりが必要と認識している。

【資料1の13ページ（概要版4ページ）の説明】

- ・まちづくりに必要な視点について、「他地区と同じような画一的な駅前とするのは良くない」とのご意見である。視点⑤「魅力ある地域資源を共有」と示すように、篠路らしい魅力あるまちづくりを目指し、駅前街区は民有地であることから、地権者と計画の考えを共有し、篠路地区の個性や特色を活かした土地利用について検討する。

【資料1の14ページ（概要版4ページ）の説明】

- ・「駅前の再開発に合わせた賑わいづくりが必要である」とのご意見である。これに対しては、視点④「にぎわい・交流の場の創出」を掲げている。駅前街区は民有地であることを考慮し、地権者と計画の考えを共有し、協議を重ねながら土地利用について検討する。

【資料1の15～16ページ（概要版4、8ページ）の説明】

- ・地域資源に関するご意見である。「軟石倉庫やレンガ倉庫の保存活用の機運醸成、郷土資料館などで文化を保存すべき、駅舎保存や、標識の保存など歴史が受け継がれるよう配慮すべき」とのご意見である。魅力ある地域資源の

共有はまちづくりに必要な視点と考えている。ご意見のあった施設は札幌市の資産ではないため、本計画で保存等についての具体的な考え方を示せませんが、地域主体のまちづくり活動の方向性の一つに「既存資源の有効活用」を掲げており、令和4年度の社会実験の中でも地域の皆様に篠路の文化・歴史を受け継ぐ活動に取り組んだ。地域資源の魅力を伝える方法は様々あるが、その文化財を大切に、次の世代に伝えていきたいという地域の思いが重要であることから、地域の自主性を尊重していきたいと考えている。

【資料1の17ページ(概要版6ページ)の説明】

- ・「3. まちづくり基本方針」の「まちづくり重点エリアの方向性について、駅前エリアは今後も結節点として発展して欲しい」「線路により両エリアの交通が分断されているが、住民の精神的な結節点は、駅前エリアであり、今後も両地区の結節点は駅と神社のある駅前エリアであることに変わりはない」とのご意見、これに対しては、今後の社会基盤整備により東西エリアと駅前の回遊性向上が期待される。東西エリアの中心となる駅前エリアについては、駅前にふさわしい顔づくりを目指したい。

【資料1の18ページ(本書44ページ)の説明】

- ・「(2) 各重点エリアの方向性：1) 駅前エリア」の1行目に「駅前エリアは篠路駅や篠路出張所などの機能を備え、北区北部3地区の行政機能の中心であるが、そうなのか」とのご意見。これに対しては、篠路出張所は北区北部3地区の利便性向上を目指した窓口サービス拡充を行い、様々な行政手続きが可能である。ご意見も踏まえ、北区北部3地区の「行政機能を支えるエリア」に修正する。

【資料1の19ページ(概要版8ページ)の説明】

- ・「旧琴似川を楽しめる空間として整備すべき」とのご意見である。これに対しては、旧琴似川の篠路区間は、北海道が整備・維持管理を行う1級河川であり、現在も随時環境改善に向けた河川改修が進められている。空間活用については、地域主体のまちづくり活動において、(旧琴似川も含め)地域にある多様な場所をうまく活用しながら多世代が交流できる、笑顔あふれるコミュニティづくりを目指す。

【資料1の20ページ(概要版8ページ)の説明】

- ・地域主体のまちづくり活動の取組イメージについて、「地元で地道に活動してきた組織の力が活かされるよう配慮すべき」とのご意見である。まちづくり計画においても、「(3) 持続できるまちづくり体制の構築」に示すとおり、地域主体のまちづくり活動を継続させていくには、現在地域で活動されている方々、新たな担い手など、多様な担い手により活動体制が構築されることが重要であると記載している。

【資料1の21ページ(概要版13ページ)の説明】

- ・シノロリビングについて、大きく分けて「開催コンテンツについて」「活動の担い手について」「活動の仕組みづくりについて」のご意見を複数頂いた。1つ目「市民が主体で、住みやすくする仕組みづくりをやりたいという人は

潜在的にはいる」、2つ目「フリーマーケットや骨董市など、一般市民でも出店者として関わりたいと思っている人はいると思う。将来的な企業家が出てくる可能性もある」、3つ目は「月1のイベントや、毎週決まった曜日に行うイベントを定着させ、特色あるまちづくり活動が行われる地区にしたい」とのご意見を頂いた。これに対しては、地域主体のまちづくり活動は、頂いたご意見を含め様々な可能性があり、個々の取り組みの内容については参加者の主体性を尊重することが重要であるため、地域の皆様が行いたい活動を支援していきたいと考えている。地域主体のまちづくり活動を継続していくことで多様な担い手の参画に繋がると考えている。

【資料1の22ページ(概要版11ページ)の説明】

- ・ 駅前エリアの土地利用に関するご意見である。「篠路出張所は駅前にあった方がよい。複合施設に入る形でもよいと思う。」「駅前エリアに商業機能、交流機能を誘致できるとよい。バリアフリー化や、篠路出張所とのアクセスに配慮すべき」とのご意見である。これに対しては、出張所を含む公共施設については、今後のあり方を検討してくることが必要と考える。駅前街区は民有地であるため、協議を重ねながら駅前の生活利便性を向上する商業機能、地域コミュニティの拠点となる交流機能の導入を目指す。また、バリアフリーへの配慮は、設計等の具体的な施設計画の段階で検討する必要がある。

【資料1の23ページ(概要版12ページ)の説明】

- ・ 東エリアの土地利用について、「東エリアの土地利用は、駅前エリアの土地利用が決まってからの方がよい。施設だけに目を向けなくて欲しい」とのご意見である。これに対して、概要版10ページの「4-2今後の展開」に考え方を示している。各エリアによって土地利活用の可能な時期や、社会基盤整備の進捗などが異なるため、段階的な整備として、早期に利活用が可能な市有地A・Cを先行して具体化を進めていく考え。市有地Bと駅前街区は事業者等の調整を進めつつ、まちづくりの進捗に応じた活用方法を検討し、適切な時期で土地利用を行うことでまちづくりの効果の最大化を目指す。
- ・ この他にも、駅前街区・市有地にあると良い施設について多数のご意見を頂いた。具体の施設は、その時の経済情勢等が考慮されるため、土地利用を具体化する段階で事業方法も含め検討したいと考えている。今回ご紹介できなかった内容を含め、本計画に関するご意見と市の考え方については、1月中を目途に、札幌市公式ホームページに掲載する。また、パブリックコメント実施結果を基に、本書及び概要版の修正を行うことに加え、資料編として本書の最後のページに追加する予定である。

<質疑応答> まちづくり計画(案)、パブリックコメント実施結果について  
質疑なし

○ 地域主体のまちづくり活動について

➤ シノロリビング vol.2 開催結果のご報告

(事務局)

【資料1の26ページの説明】

- ・シノロリビング vol.2 について開催のポイントなども振り返りつつ報告させていただく。

【資料1の27ページの説明】

- ・「シノロリビング」は、検討委員会及び地域協議会における「居場所づくり」「コミュニティづくり」「少しずつまちを変えていく仕組み」が必要等のご意見を踏まえた、駅前に広場を作り、まちの「居場所」や地域の「コミュニティ」の可能性を探る社会実験である。
- ・今年度は第2回目として、8月25日(木)～28日(日)に開催した。今回は夏季の実施とし、「取り組むコンテンツの拡大」、「多世代の交流」、「地域の関わりしるを増やす」の3点をポイントとして、令和3年度に加え、図書、物販、文化や歴史の発信、親子での体験と言った様々なコンテンツを追加して実施した。

【資料1の28ページの説明】

- ・基本的な場としての設えについて、昨年度と同じ駅前の土地をお借りし、人工芝や北海道大学様の組立和室、キッチンカーが並ぶ前にテーブル・イスといった来場者が憩える設えを準備した。キッチンカーについては、今回は公募にて参加を募り、クレープやジェラート、コーヒーの店舗から豚丼やから揚げ、蕎麦、ステーキ丼などのご飯ものまで幅広い料理を提供していただいた。また、社会福祉法人あいのさとワークセンター様との連携で、栽培している野菜の販売を行った。さらに、本の貸出を行ったり、絵本の移動販売を始められた方とも連携し、本・図書のコンテンツも取り入れた。

【資料1の29ページの説明】

- ・昨年度に引き続きランターンを並べるなど、照明を用い雰囲気作りをした。更に、レンガ倉庫の壁面に篠路子ども歌舞伎や北区保護司会様の活動、子供向けのアニメーションを放映し、「今まで篠路に住んでいたけど子ども歌舞伎は知らなかった」「小さいのに凄いね」といった声を頂いた。地域の歴史や文化の情報発信に繋がったと感じている。

【資料1の30ページの説明】

- ・様々な活動・交流もあった。地元小学生プロドラマのステージ発表やコースターづくりのWS、モルックで子どもたちに遊んでもらうなど、多くの世代に楽しんでもらうことができた。また、1日1回「振り返りトーク」という企画を開催し、事務局を中心として来場者や出店者、学生さんなどが集まり、社会実験を通して感じたことや将来の篠路に向けた意見交換など幅広い世代が交流する場として展開した。参加いただいた方からは「こういった形で多世代が会話する機会が無いと、非常に刺激になった」という感想や「地域への愛情の必要性」など幅広い意見を頂いた。



【資料 1 の 3 1 ページの説明】

- シノロリビング vol.2 の結果概要について、まず、「空間利用状況について」、4日間の来場者総計は約850人で、40代が最も多く、シノロリビングを目的とした子ども連れの来場者が多い傾向であった。また、来場者のお住まいについては篠路駅周辺の方が26%、北区北部3地区からは64%を占めており、昨年よりも広域から来場された方の割合が多く、徒歩と自転車で来場が昨年より減った一方で鉄道を利用した来場が14%に増加した。
- 「運営者の意見」については、他の野菜マルシェや物販も含め、売り上げは概ね良好であり、一定以上の需要が確認できた。また、こういった活動を継続的に地域中心の取組として求めるご意見を頂いた。また、場のデザインの重要性に関する意見も多く頂き、夜間の照明や組立和室など、活動する場を構成する上で居心地の良いデザインも重要な要素であることが再認識できたと考えている。
- 「利用者の意見等」について、今回は昨年よりも様々なコンテンツを実施した中で、「地域が集える場所が欲しい」「立ち寄れる場所が欲しい」といった意見や、アンケート調査においては、マルシェやチャレンジショップなどの新たなコンテンツを求める意見を頂いた。総合的な満足度については、「満足・まあ満足」が7割以上で、昨年度のアンケート結果と比べて満足度の高い回答者の割合が増加している。
- 以上を踏まえ、広場の需要が確認されたとともに地域のチャレンジ、地域中心の取組など、今後の活動を求める声があり、継続的な活動体制を検討していくことが重要であること。キッチンカーやワークショップなど、様々な活動の可能性が確認されたということ。「子育て世代の来場が多く、若い世代が住み続けたいくなるまちづくりに繋がる取組であった一方、若い世代が主体的に考えて取り組むことの重要性が確認できた。

➤ SHINORO open! meeting について

(事務局)

【資料 1 の 3 3 ページの説明】

- 前回の検討委員会では、地域協議会が終了した後にも、「引き続き話し合える意見を言いやすい場」、「若い世代の意見も入れるべき」、「自主性が重要で成功体験を積むとよい」等のご意見や「シノロリビングは継続した取組になると良い」、「自走ができるようになるまで行政がサポートに入ったほうがよい」等のご意見を頂いた。これらのご意見も踏まえて、第5回地域協議会では、事務局より「気軽に話し合える場、いろいろな方が参加できる場」を「仮称篠路 open!meeting」と位置づけて枠組みを提案し、意見交換を行った。この枠組み自体は、「日常的な居心地を良くしてまちを魅力的にする取組」、「活動を通じて楽しみながら徐々に活動者・協力者を増やす取組」等により「まちに小さな変化」を生み出していくアクションファーストの場であり、まちづくり計画の実現に繋げていきたいと考えている。

【資料 1 の 34 ページの説明】

- ・集まりの展開イメージとしては、始めは小さな活動から始め、行政や有識者の支援を受けつつ、メンバーも活動の種類も育っていくことが重要と考えている。継続し・育っていくためには、継続できる取組を検討することと、それ自体を楽しみながら取り組むこと重要であり、スモールスタートから成功体験を重ね育てる視点が重要と整理している。

【別紙 1-1 の説明】

- ・「SNS を活用しつつ発信することの重要性」や「自分事や地域ごととして捉えられる人材を集めていくこと」「子どもがキーワードになる」といった今後の展開に繋がるご意見を頂いた。「シノロリビングで得られた人脈や若い世代と意見交換する」、「地域の方が入っていくべき」「主体的に動ける人、コアとなって動ける人が必要」、「アクションとなる場をなるべく早く実施する方が良い」といったご意見から、open! meeting の早期開催を目指す方向となった。

【資料 1 の 35 ページの説明】

- ・昨年 12 月 12 日（月）に篠路コミュニティセンターで開催し、参加者は、一部の地域協議会委員のほか、シノロリビングのアンケートにてまちづくり活動に興味があると回答いただいた方にお声掛けをして、有志 15 名で行った。集まりの経緯の説明と参考情報として簡単な事例紹介の後、「篠路の好きな過ごし方・印象・場所など」をテーマにした意見交換、また、具体的にやってみたいことについて意見交換を行った。

【資料 1 の 37 ページ（別紙 1-1）の説明】

- ・意見交換でのご意見として、「活動」、「生活の目的地」、「大事にしている自然資源や歴史文化過去に関すること」、「問題点」に分類された。篠路駅西側に目的地が多いこと、駅前にあまり活動がなく課題が多いことがポイントかと思う。「どんなまちにしていきたいか」、「どんな活動にしていきたいか」、こうした意見交換を積み重ねていけると良い。

【資料 1 の 38 ページ（別紙 1-2）の説明】

- ・「やってみたい活動」と、その活動が向かう方向性として「こんな篠路がいい」という 2 点について、まずは自由に意見を言い合う場としてアイデア出しを行った。意見を分類すると、「交流・多世代交流」「子ども」「景観・美観」「歴史文化」「にぎわい」「健康」「発表」「ブランディング」といったものに分けられる。これを基に地域での活動の具体化や実現したいことについて、今後も引き続き議論していく。
- ・今後の具体的なアクションとして、シノロリビングや情報発信の方法についても意見があり、こうした活動はスモールスタートで出来る取組であると考えており、地域で一步踏み出すこととしてふさわしいものについても、この 2 つをたたき台として次回の会議で参加者と意見交換していけると良い。
- ・第 2 回の開催方法についても参加者で意見交換を行い、「会議を継続する」「やりたいことだけでなくできることを持ち寄る」「成功事例を知る」「調べたも

のがあればお土産として持ち寄る」といった意見を頂いた。開催時期についても議論を行い、次回開催は、2月ごろに開催する予定である。

【資料1の39ページの説明】

- 第2回の開催イメージである。内容は、前回議論を踏まえ今後のSHINORO open! meetingの方向性を議論・確認することが中心と考えている。また、他地区事例等の情報交換など第1回ミーティングで提案があった事項を具体的なアクションとして実施すること、今後のSHINORO open! meetingの方向性を確認した上で、具体的な取組や今後の進め方について議論を行う。「話題や展開の方向性についても、参加者による議論を重ねつつ進めていく」ことが重要であり、そのための必要な下支えを行っていく想定である。

<質疑応答> シノロリビング、openmeetingについて

(委員)

- open! meetingについての質問ですが、第1回open! meetingに15名が参画されているが、参加された方が核となると思われる。今後、open! meetingに参画いただく方を増やしていくかと思うが、人の増やし方や広げた方についてopen! meeting内で意見交換されていたら教えて欲しい。また、事務局側で考えがあるならば教えて欲しい。

(事務局)

- 今後は広げ方について意見交換が必要だと思う。前回のopen! meetingではご意見は頂いていない。大きな方向性として、話し合いの場をファーストステップとし、具体的な取組に繋げていくことを見据えている。第2回open! meetingで意見交換しながら広めていきたいと考えている。

(委員)

- シノロリビングについて、ご説明によれば大成功したという事だが、地元住民としては、キッチンカーなど地域外の事業者の出店だけではなく、是非、篠路地域の方に呼びかけることによって、繋がりや関心を持っていただけるかと思う。また、シノロリビングを開催した場所が狭いと感じる。将来駅前に公園ができるということもあって、今回の場所に拘っていると思われるが、継続して開催するのであれば、会場を見直すことも視野に入れて欲しい。篠路地域の方はほとんど同様の意見である。その辺りも検討して欲しい。

(事務局)

- 地域の方を巻き込んでいくという方向性は持っている。場所については、シノロリビングの始まりのきっかけとして「駅前を賑わせてほしい」といったことから駅前のできる場所にてスタートした。これまでの2回の社会実験によって「駅前の可能性」についての検証はできていると考える。地域主体ということもあるので、今後も地域の方々と一緒に議論しながら進めていきたい。

(委員)

- 事務局の努力のおかげで地域に良い下地ができていると感じる。地域協議会、open! meetingなどで他地域の活動など事例を共有しているのか。また、紹介した経緯などがあれば教えて欲しい。

(事務局)

- open! meeting の機会でも、全国の事例などを説明している。しかし、取組の内容説明が基本であり、どのように取組が展開してきたかなどの説明はできていない。事業者主体の事例が多い中、地域主体まちづくりとして清田区の実例がある。今後、話題提供する中で、清田区の活動を知りたいというようなことになれば、活動団体を紹介するなどについても考えていきたい。

(委員)

- 小さな企業でも良いが、今の時点で何かしら地域の経済活動や事業を展開している方、そういった立場の方が参画する雰囲気などはあるか。

(事務局)

- 現在の状況だと、企業という形での参加はないが、それぞれ篠路で取組をされている方は参加している。事業されている方々は、地分の取組を広めていきたいという想いを持たれていることもあり、積極的なご意見を頂いた。

(委員)

- open! meeting でいただいた意見には面白い意見が多く、個人的には行ってみたらどうかと思う。実際、色々な取組を行った方が良いと考える。意見を頂いて終わるのではなく、繋げるパイプ役が必要である。地域の方が参加して初めてこの活動が盛り上げていくと思うので、人が集まるようなイベントを積極的に地元から発信することが大切だと感じた。

(委員)

- open! meeting で頂いた「こんな篠路が良い」について沢山のご意見があり、篠路には色々な良いところがあると再認識した。費用面や場所に関して色々あるかとは思われるが、シノロリビング、open! meeting など、実現可能な範囲で小さいことから行うことが非常に素晴らしいと思う。例えば「巨大な篠路まんじゅうをつくる」なども、色々な方のご協力を得られれば実現可能かと思われるし、人が集まることで経済的なメリットもある。地域一体となつての活動に繋がっていく。
- 以前、大学生が中心となつて、地元でギネス(手つなぎ鬼)に挑戦したことがある。天候が悪く中止となつたが、企業の協力も得ることができたので、企業の方も一緒に何か行えたら良いと思った。

- open ! meeting の意見交換の中で、実際に活動を行いたいとの声はあったのか、また、今回のシノロリビングには積極的な方が参加されたと思うが、こんな人にも参加して欲しいなどの声はなかったのか。

(事務局)

- 第 1 回 open ! meeting は、初回であることもあり、自由に発想してもらうことを大事にした会議を開催した。そのため、あまり意見を制限せず、様々なアイデアをいただくことができた。一方、open ! meeting の場でも、自分事と考え、できることから考えるべきという意見も示されている。次のステップとして具体的な検討に繋がっていければ良いと考える。

#### ○ 今後のまちづくりの展開について

(事務局)

【資料 1 の 4 2 ページの説明】

- まちづくり計画は令和 4 年度末に策定予定である。本計画を踏まえ、駅前街区及び市有地の土地利用検討を進めるとともに、open ! meeting をはじめとした地域主体のまちづくり活動の機運醸成を引き続き行う。
- まちづくりの展開にあたっては、札幌市が中心となり計画の検討を進めるとともに、進捗に応じて地域住民、町内会等の地縁組織、関連事業者、民間事業者等との連携を図り協働して進めていく。また、社会基盤整備の進捗状況だけでなく、新型コロナウイルス感染症や資材・燃料の高騰をはじめとした社会情勢の変化等への柔軟な対応を図り、計画の実現に向けて努力する。

#### < 検討委員の皆様より一言 >

- 「まちづくり計画」という形でまとめられたのは良い。ただの計画ではなく、実行するためのシノロリビング（社会実験）であり、別に open ! meeting という場を設けたことで、仕掛けとしての成果は得られたと思う。地域住民としては、市有地の活用について高い関心を持っていると感じる。地域の方と議論する場、共有する場を設け意見を取り入れていくことが大事だと思う。open ! meeting などの場、機会を有効活用するために次のステップが必要だと感じた。
- パブリックコメント実施の結果をみて、一番多かった意見は「実現に向けた展開」である。「今後の展開」、「自分たちの活動」に対して興味がある方が 11 名おり、今後の活動に対して興味があると感じた。まちの活動、変化に対して機敏に感じ取れるのが地域の方だと思うので、その方たちの活動がより育んでいける環境をシノロリビングや open ! meeting で構築できればよいと思った。

- ・篠路のまちづくりに関して、これから10年後である。まだ先のことはあるが、篠路地域は高齢化が進んでいるため、高い関心を持っている。開発の進捗状況など途中でも良いので情報を発信して欲しい。
- ・まちづくりについて、10年後ということもあり、これから大事だと感じている。SHINORO open! meeting について、地域協議会のメンバーが非常に重要となり、地域の核となると思う。ただ、行政支援として、札幌市の支援も大切であり、引き続き力添えいただくことが重要だと思っている。
- ・今回、シノロリビングなどを開催し、多世代に渡り繋がりやコミュニティができたと思うので、継続的に行う事が大事だと感じた。特に大事なことは、地域住民であるため、そういった方々からのご意見やイベントなどに参加を促すなど積極的に関わることを続けていく必要がある。また、何年後という考え方ではなく、後何年しかないとの考え方の方が良い。皆で盛り上げていく場が大切である。
- ・第3回検討委員会から参加させていただいており、篠路のまちづくりに関しての想いを知る機会となり良かった。パブリックコメントの意見より「他地区と同じような画一的な駅前とするのは良くない」という意見について私も同意見であり、地域住民が誇れる駅前空間をつくれると良いと思った。
- ・今回、シノロリビングとして2回継続して実施できたことは素晴らしいと思った。現在は、まだ、スタートダッシュの段階のため、色々な方が関わっているが、今後に向けて、地域の方が主体となれば良い。なお、今回のシノロリビングには、色々な立場の方々が参加していたので、方向性としては、非常に良いと感じた。また、地域協議会に参加していただいた方の中で興味がある方に参加いただき、open! meeting という場が設けられたことが良いと思う。open! meeting の際に多世代の方に、ご意見を沢山頂けたので、そういった場を継続していき、参加者が増えていけば篠路が良いまちになっていくのではと思った。
- ・パブリックコメントにも記載があったように「フリーマーケットや骨董市など、一般市民でも出店者として関わりたいと思っている人はいると思う。また、企業家がでてくる可能性もある」とのご意見を頂いたので、小さなことから行っていき、ハードルを感じさせない雰囲気づくりが大切である。歴史や文化、そういった色々なカテゴリーの中で、興味を持っている方は篠路には沢山いると感じているので、イベントなどをとおして参加いただけるような雰囲気づくりも大切である。
- ・SNSなどをうまく活用しながら、アクティブシニアや次世代を担う方たち

がまちづくりに参加して欲しい。また、札幌市の地域のよっては、様々なイベントなどを開催しているので、そういった情報等を共有し篠路のまちづくりに活かしていければ良いと感じた。

### 3 まとめ・閉会

(事務局)

- まちづくり計画を策定することが目的ではなく、実行することが目的である。今後、パブリックコメントでのご意見などを踏まえた修正を行った後、年度末の完成を予定している。今回の検討委員会の内容については、町内会で回覧されるシノロナビやホームページにて情報を発信する。